

大平農園

4-05年

つなぐ

オンライン上映会

ハイビジョンサイズ 77分
バク・2021年作品

世田谷区等々力で400年続く大平農園は、農業禍に遭った先代が“土づくりは堆肥づくり”と始めた有機農業の伝承地です。
自然が循環するやさしい農法、ていねいに農作物を育て自然と向き合う人々、そして直面する課題、、、
大都市に暮らす私たちに、いま、必要なことはなんなのでしょうか？

2021.12/4(土)13:30~15:30

場所：お好きな場所から Zoom で・定員：先着 100 名・参加費：無料

401年目のその後

渋谷から電車に乗ってわずか15分の場所に大平農園はある。有機農業の

先駆者であり400年続く農家。私は2018年に農園の1年を追ったドキュメンタリー

「大平農園 401年目の四季」を完成させた。その後、農園主は80代後半、畑のリーダーは70代後半を迎えた。

農園はまだまだいける、シルバーパワー全開だ!と思っていたが、転機は突然やってきた。それでも畑は待って
くれない。2019年、農園のその後を記録し始めた。毎日続く農作業の中で、農園主もリーダーも、援農メンバー
も皆が農園の行く末を悩みながら、それでも畑には笑顔があった。苦悩の末、農園主が下した決断とは……。

森信潤子 (本作企画・撮影・編集)

故大平博四さんから映画作りの為、トマトの栽培方法を教えて頂いた。その時に博四さんが「東京には小判(お金)がいっぱい落ちて」と仰った。小判とは落ち葉のことである。私は堆肥作り、土作りにかける博四さんの思いの深さを知った。人が健康に生きていく為に一番大切な有機農業を続けて400年、大平農園がこの先いつまでも続くことを切に願います。

大地康雄 (俳優)



『大平農園 401年目の四季』から4年、有機農法で知られる大平農園は大きな変化に見舞われている。農園に惚れ込んだ人々の農作業が制限を余儀なくされるようなコロナ禍の厳しい状況もさることながら、樹齢400年を誇るケヤキの古木を伐採するシーンに象徴されるように、大平美和子さんをはじめ働き手の高齢化によって農園の存続が危ぶまれる。そんな農園の現在を、継続の願いを込めて優しく丹念に描く監督の愛おしい視線が魅力的だ。

村山匡一郎 (映画評論家)

一青窈 (歌)

実家の近くに無人販売している農家があった。
そこは樹齢400年のケヤキが大きく葉を茂らせていて
風の音がよく聞こえた。
母がそこで旬の野菜を選んでキッチンで調理してくれた。
散歩道にある畑から伸びる樹々の彩りが
四季折々に私の目を喜ばせてくれた。
紅梅、白梅が好きだった父亡き後も
梅の実がごろごろアスファルトに転がれば
自分が同じ眼差して見つめていることに気づき、ふと笑みがこぼれてしまう。
庭にセキレイや青蛙の音が聞こえると
「この町で暮らしている」という実感があった。
中学1年生で有機栽培のトマトについてレポートを書いたとき
見学させてくれたのも大平農園だった。
丁寧に農作物を育ててくださる方がいて、
それを頂くことの幸せを当たり前のように享受していたが
三児の母となり、生産者の顔が見えるものを食べさせたいと
心から思うようになった。
たくさんの子供たち、お父さん、お母さんに見て欲しい。
努力を積まなくてはいいものはいかない。それは音楽も同じですね。

企画・撮影・編集 ● 森信潤子
朗読・ナレーション ● 大地康雄
音楽 ● トウヤマタケオ
録音スタジオ ● スリーエー工房
デザイン ● 山本祐衣
協力 ● 大平農園、若葉会、健友館、
園部智子、鶴田朋子
プロデューサー ● 山本常夫



製作・著作 ● バク
問合せ先
E-mail ● baku.docume@gmail.com
FAX ● 03-3409-8177
DVD / Blu-ray : 3,500円 (税込)
ライブラリ版 : 20,000円 (税込)
(複製不可・転売不可・無断上映不可)

申込み・問合せ (×切 11/27)

setakatte@gmail.com

QRコードから申込み→
←またはメールにて



①氏名②緊急時連絡先③参加人数④お住いの住所 (町名まで)⑤生活クラブ生協の組合員の方はその旨を明記してお申し込みください

主催：生活クラブ運動グループ世田谷地域協議会